

横山恵子 ソプラノリサイタル

ピアノ：湯浅加奈子

1部
 ます シューベルト
 献呈 シューマン
 はすの花 シューマン
 森の幸せ ヨーゼフ・マルクス
 愛がお前の心に宿ったなら ヨーゼフ・マルクス
 踊り ロッシーニ
 ゴンドラの舟遊び ロッシーニ
 約束 ロッシーニ
 アルプスの羊飼いの娘 ロッシーニ
 ゴンドラの唄 中山晋平 (吉井勇詞/岩河智子編作)
 砂山 中山晋平 (吉井勇詞/岩河智子編作)
 故郷 岡野貞一 (高野辰之詞/岩河智子編作)

2部
 歌劇「セルセ」より なつかしい木陰 ヘンデル
 歌劇「ラ・ボエーム」より 私の名はミミ プッチーニ
 喜歌劇「ジュディッタ」より 熱き口づけ レハール
 歌劇「マノン・レスコー」より 間奏曲 (ピアノソロ) プッチーニ
 歌劇「タンホイザー」より おごそかなこの広間よ ワーグナー
 歌劇「トゥーランドット」より この宮殿にて..... プッチーニ

夏

2015
 四季コンサート

2015年6月5日(金) 18:00開場 18:45開演
 会場：アクトシティ浜松中ホール
 主催：浜松音楽友の会

プロフィール

横山恵子 (ソプラノ)

東京音楽大学卒業、同大学研究科修了。ウィーン国立歌劇場宮廷歌手ミリャコヴィッチ女史との出会いを機に92年渡欧。同年バイエルン州立コーブルク歌劇場に認められ、『ドン・カルロ』エリザベッタで欧州デビューを果たす。その後ドイツを拠点に欧州各地でヴェルディ、プッチーニ作品を中心にタイトルロールを歌い、中でも蝶々夫人は最多な出演回数を誇る。主な音楽祭出演にはウィーン音楽週間「クラング・ボーゲン」、ブダペスト春の音楽週間、トッレ・デル・ラーゴ(伊) プッチーニ・フェスティバル等がある。日本での本格的タイトルロールデビューは、96年東京、大阪での浅利慶太演出小澤征爾指揮による『蝶々夫人』(02年東京、北京で再演)。07年に15年間のヨーロッパ生活を終えた帰国後は、日本初演となった二期会『エジプトのヘレナ』をはじめ、『ナクソス島のアリアドネ』などのR.シュトラウスや『ワルキューレ』ブリュンヒルデ、ジークリンデなどのワーグナーから、『オテロ』『マノン・レスコー』などのイタリアものまで幅広いレパートリーで活躍。近年では11年『アイダ』(びわ湖ホール・神奈川県民ホール)及び二期会『トゥーランドット』それぞれタイトルロール、13年新国立劇場『ホフマン物語』ジュリエッタ、14年二期会『ドン・カルロ』エリザベッタ、日生劇場『アイナダマール』マルガリータ・シルグ等で、高い音楽性を披露している。東京音楽大学教授。二期会会員。

湯浅加奈子 (ピアノ)

東京音楽大学卒業後、同研究生(ピアノ伴奏者コース)修了。2001年ピティナピアノコンペティション・デュオ特級において全国大会入選。これまでに新国立劇場をはじめ、二期会、日生劇場等数々のオペラ公演において音楽スタッフおよび本番ピアニストとして参加。また東京混声合唱団とは全国各地の演奏会で共演。おもに声楽のリサイタル等、伴奏ピアニストとして演奏活動を行っている。現在、東京音楽大学及び大学院非常勤講師。二期会オペラスタジオピアニスト。



横山恵子
 ソプラノリサイタル

KEIKO YOKOYAMA
 SOPRANO RECITAL

●シューベルト／ます

シューベルトは、31歳という短い生涯で600曲以上の歌曲を書いた。「ます」は1816～17年頃の作品。テキストは反体制詩人シューバルトの詩で、小川で泳いでいるますを漁師が釣る様子が描かれている。後年シューベルトはピアノ五重奏曲の第4楽章にこの主題を用いた。

●シューマン／献呈 はすの花

シューマンが歌曲集「ミルテの花」を書いたのは1840年。想いを寄せるクララとの結婚が、ようやく実現する兆しを見せて来た頃で、その年多くの歌曲が創作された。ミルテとは地中海沿岸に咲く白い花。ドイツでは純潔を表し、花嫁のブーケに使われる。花言葉は「愛」。ゆえにシューマンは結婚前日にこの曲集をクララに献呈したのである。その第1曲が「献呈」、「はすの花」は第7曲。ともに恋人に対する真摯な情熱を吐露している。

●ヨーゼフ・マルクス／森の幸せ 愛がお前の心に宿ったなら

オーストリアに生まれたヨーゼフ・マルクスが、後期ロマン派を標榜する作曲家として知られるようになったのは、30歳頃に書いた120曲ほどの歌曲によってである。その後マルクスは、ウィーン国立音大の教授や学長を務めた他、交響曲をはじめとする管弦楽曲、ピアノ協奏曲、多くの室内楽曲を書いたが、マルクスの特徴をもっとも表わしているのは歌曲である。デーメル詩による1911年の「森の幸せ」、ヘイゼの詩による1908年の「愛がお前の心に宿ったなら」は、ともにロマンティック極まりない佳曲である。

●ロッシーニ／踊り ギンドラの舟遊び 約束 アルプスの羊飼いの娘

「セビリアの理髪師」などで知られるイタリアの作曲家ロッシーニは、40曲ものオペラを遺した。他にも「アルジェのイタリア女」や「チェネレントラ」、「セミラーミデ」、「オテロ」など、シリアスなオペラや喜歌劇の両面で大ヒットを連発、20代ながらその名声はヨーロッパ中に轟き渡った。

けれどもロッシーニは、「ウィリアム・テル」を最後にオペラの創作から引退、まだ40代の若さで隠居生活に入り、美食を生きがいとしてパリで余生を送った。それでもその後、少しの歌曲や宗教曲を手掛け、1837年頃に「音楽の夜会」と題する8つのアリエッタと2つの二重唱を含む12曲の歌曲集を出版した。

もっとも知られている「踊り」は第8曲、「ギンドラの舟遊び」は第7曲、「約束」は第1曲、そして「アルプスの羊飼いの娘」は第6曲。

●中山晋平／ギンドラの唄(吉井勇:詞/岩河智子:編作) 砂山(北原白秋:詞/岩河智子:編作)

「シャボン玉」、「てるてる坊主」、「カチューシャの唄」、「東京行進曲」など童謡や日本歌曲、流行歌などを創作した中山晋平の作品は、なんと1800曲近くもあるという。独特の作風で知られるが、「ギンドラの唄」は1915年、島村抱月が松井須磨子らと旗揚げした芸術座第5回公演「その前夜」の劇中歌として松井が歌唱、大ヒットとなる。また「砂山」は、山田耕筰の曲もあるが、当初北原白州が1922年に新潟で作詞し、中山に作曲を依頼したもの。山田は翌年同じ詩に曲を付けた。

●岡野貞一(高野辰之:詞/岩河智子:編作)／故郷

岡野貞一は「春が来た」、「春の小川」、「朧月夜」などを創作した作曲家である。キリスト教徒として宣教師からオルガンを学び、東京音楽学校で研鑽を積んだ。後年、同校の教授として指導にあたったが、尋常小学唱歌の作曲委員としても活躍、「故郷」は広く歌われる名曲である。

●ヘンデル／歌劇「セルセ」より なつかしい木陰

「ラルゴ」の愛称で広く知られているこの曲は、歌劇「セルセ(クセルクセス)」第1幕の冒頭で歌われるクセルクセス王の美しいアリア。「これほど緑が豊かで美しい木陰はこれまでになかった」と歌われる「なつかしい木陰(オンブラ・マイ・フ)」は、しみじみとした深い味わいに溢れている。

●ブッチーニ／歌劇「ラ・ボエーム」より 私の名はミミ

1896年に初演されたブッチーニの代表的歌劇のひとつ「ラ・ボエーム」は、自由な生き方を目指すボヘミアンたちのパリでの物語。詩人ロドルフォとお針子のミミは、第1幕で偶然出会って恋に落ちる。ロドルフォの「この冷たき手に」に続き、「私の名はミミ」で自らを語る。

●レハール／喜歌劇「ジュディッタ」より 熱き口づけ

「ジュディッタ」は、「メリー・ウィドウ」で知られる歌劇作曲家レハールが1933年に書いた最後の喜歌劇で、翌年ウィーン国立歌劇場で初演された。地中海を舞台に、外人部隊の上官と人妻ジュディッタとの恋物語。「熱き口づけ」は第4幕でのジュディッタの情熱的なアリア。

●ブッチーニ／歌劇「マノン・レスコー」より 間奏曲(ピアノソロ)

1893年に初演された、ブッチーニの代表的歌劇であり、一躍脚光を浴びた出世作。以降ブッチーニは、次々とヒット作を生み出していく。これは第2幕と第3幕の間に演奏される、仄暗い抒情が横溢するきわめて美しい間奏曲。

●ワーグナー／歌劇「タンホイザー」より おごそかなこの広間よ

「タンホイザー」と「ヴァルトブルクの歌合戦」という2つの伝説をもとにワーグナーが書いたのが、全3幕の歌劇「タンホイザー」で、1845年に初演された。「おごそかなこの広間よ」は第2幕、中世ドイツの吟遊詩人・騎士タンホイザーに密かに心寄せるエリザベート姫が、久々に歌の殿堂での歌合戦に参加する喜びを歌う。

●ブッチーニ／歌劇「トウーランドット」より この宮殿にて

まじまじうだい(音楽評論家)